

平成 29 年度 第 3 回学校協議会議事録

○開催日時 平成 30 年 2 月 20 日(火) 15 時 30 分～17 時 00 分

○開催場所 池田高等学校校長室

○出席者 【協議会委員】

桑畑進(大阪大学大学院工学研究科教授)、萬川幹夫(本校同窓会会長)、鍋島浩(本校後援会会長)、
松浦周介(旭丘自治会) 近藤博道(本校 P T A 会長)

【事務局(教職員)】

校長、教頭、深江首席、森首席、山下教務主任、榎本進路指導主任 (計 11 名)

○議事進行 教頭の司会により学校協議会開催。桑畑委員を議長として協議事項に移る。

○協議事項

1. 学校経営計画の達成状況(校長より説明)

① 本年度の成果

イ) 授業評価アンケート改訂、アクティブラーニング推進による教員授業力向上

・学校教育自己診断アンケート「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」

肯定率：H24 年度 32%⇒43%⇒47%⇒56%⇒65%⇒本年度 67%

・生徒授業評価 3P 以上の教員比率：H25 年度 51%⇒60%⇒68%⇒76%⇒本年度 80%

ロ) 生徒アウトプットの質・量向上(特にディベートの定着)

1 年 英語スピーチコンテスト ビブリオバトル ディベート(情報)

2 年 JICA エッセイコンテスト ビブリオバトル ディベート(保健)

3 年 ディベート(美術)

ハ) 自主自律推進施策を各分掌・学年で企画推進

例) 初の自学自習合宿開催 自治会生徒によるオープンスクール運営

ニ) 災害対応：生徒向け防災マニュアル作成とその周知徹底

・学校教育自己診断アンケート「災害が起こった場合、どのような行動をとればよいのか具体的に知らされている」肯定率：48%⇒68%⇒本年度 76%

ホ) 進路指導体制充実 センター試験受験率：78%⇒86%⇒84%⇒本年度 90%(過去最高)

参考【現役進学人数】 H24 年度 H25 年度 H26 年度 H27 年度 H28 年度

国公立大学：50 名 ⇒ 65 名 ⇒ 41 名 ⇒ 71 名 ⇒ 82 名

関関同立：97 名 ⇒ 102 名 ⇒ 129 名 ⇒ 111 名 ⇒ 98 名

合計：147 名 ⇒ 167 名 ⇒ 170 名 ⇒ 182 名 ⇒ 180 名

② 今後力をいれていく課題

イ) 新学習指導要領に対応したカリキュラム検討

ロ) 大学入試改革に対応した進路指導体制構築

ハ) 働き方改革、教員の業務効率化

ニ) 教科・学年を超えたアクティブラーニングプログラム(計画)策定

○質疑応答・意見交換

(委員) 私立大学でも利用されるセンター試験の意味をわかっていない保護者がいるので、保護者の理解を促す機会をつくって戴きたい。

(委員) 私立の高校は大学毎(方式・日程)の進路指導があり、どこの大学・学部なら合格可能性が高いか詳細な指導がある。池田高校は、学部内容は詳しく解説してくれるが、もう一步踏み込めないか？

(学校) センター試験後にリサーチシステムを使って 3 年担任が個別に指導を実施、国公立大学についてはかなり指導出来ているが、私大は各々テストが多岐に別れるため、対応は難しい。

- (委員) 早い時期（3年秋頃）に各大学入試の方式・日程について生徒説明をお願いしたい。
- (学校) 9月末に主要大学に本校に来てもらい説明会を実施しており、情報提供には配慮している。
- (委員) 学校教育自己診断でいじめに関する新たな質問項目を入れた理由は？
- (学校) 大阪府教育委員会からの指示で、全ての府立高校が本年度から入れている。
- (委員) いじめについて何かあるか？
- (学校) 学校教育自己診断以外に、いじめに関する生徒アンケート調査を恒常的に実施しており、深刻な事象は発生していない。
- (委員) 学校教育自己診断の「この学校には、他の学校にない特色や良い点がある」という質問は、生徒がどうやって他の学校と比較できるのか？
- (学校) 中学時代の同窓等、友人間で互いの学校の情報交換がある様子。
- (委員) 学校教育自己診断から読み取れるのは、95%の生徒が自主学習の重要性を理解しながらも、文武両立できている意識の生徒は53%、1日2時間以上勉強できている生徒は44%と、ギャップがあることが、やや心配。
- (委員) 中学校の生徒は、塾の学習で授業理解や定期考査対応が支えられて維持できているが、高校は定期考査に直結するような指導をする塾は無く、主体的に計画をたてて自学自習する経験は高校が初めてというケースが多いのではないか。
- (委員) 学校教育自己診断の「自主学習」の定義は塾の学習も含むのか、明確な定義はあるのか？
- (委員) 自主学習の当該質問をもう少し特定して、塾で勉強する時間、あるいは学校の自習室や自宅で勉強する時間、塾・予備校で勉強する時間等、自主学習する場所を限定した質問にしたほうがよい。
- (委員) 塾に行っている生徒の割合はどれくらいですか。
- (学校) 部活に打ち込んでいる1～2年の間は多くないが、3年生で7～8割程度とみている。
- (委員) 宿題はどれくらいあるか？
- (学校) 夏期休暇等で生徒に課す課題は一覧表にできるが、普段の授業に付随する宿題は各教員が行っており、全体像は把握していない。
- (委員) 最近の若手社会人をみても勉強の仕方が分かっていない人が多い。予習を含めての勉強の仕方を教えていかないと結果を出せない生徒が増えてきているのではないか？
- (学校) 自分に合った勉強方法を確立させるため、学校では極力情報を与えるようにしている。年度当初は各教科で生徒向けシラバスとともに勉強方法について解説するようにしている。また、本年度は1年生対象に「学び方を学ぶ」というテーマで大学教授の講演会を開催した。

以上